

【発行元】全国大学生協連関西北陸ブロック

開催概要

日程：2019年7月6日(土) | 場所：京都経済センター

獲得目標

- ・ 学生生活に寄り添った大学生協の共済・あわせておすすめする保険について知り、込められた想いに気づく
- ・ 共済活動とは何かを知り、一人ひとりが想いを持って活動することの大切さを実感する

参加者（カッコ内は人数）

京都大(3)、同志社今出川(4)、京田辺(1)、立命館衣笠(34)、BKC(8)、OIC(14)、龍谷大深草(10)、瀬田(12)、京教大(3)、京府大(2)、京工繊(1)、京都橘(2)、滋大津(1)、滋大(6)、奈良女(11)、奈良大(6)、奈教大(19)、奈高専(9)、阪南大(1)、連合会(12)

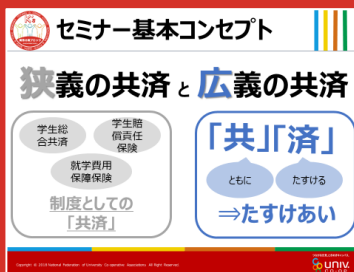
計14会員146名+α ※下線は職員の参加あり



XX 「共」：ともに 「済」：たすける

共済は保障制度+組合員による取り組みで成立！

このセミナーで学習した「共済」は、大学生協の学生組合員が出し合った掛金で運営し、病気やケガなどをした学生に対して共済金を支払う制度である「学生総合共済」と、加入者どうしが自分たちの「より健康で安全安心な生活」のために4本柱を軸として取り組む「組合員による共済活動」を指しました。



共済の本質は「たすけあい」。それは制度にも表れているし、私たちの取り組みにおける想いにも表れている！

01 大学生活でできることが増えたからこそ…

企画1：大学生活に潜むリスクを知る時間

大学生になってやりたいことやできるようになったこと、学生生活実態調査から読み取った大学生活を出し合いました。そのうえで、その裏にあるリスクを出し合うことで、大学生活に備えることが大切だということを実感しました。リスクが伴う大学生活ですが、ポイントはリスクが現実になったらどうなるか（日常生活を満足に送れますか？）を考えることだということも併せて理解しました！



大学に入って皆さんのリスクが増えたことに気づけた。（奈良女 | 1年）

02 共済は学業継続のためのたすけあいの制度

企画2：様々な「想い」に気づく時間

「大学生協の共済」のはじまりを「協同組合」の成り立ちと照らし合わせながら学びました。みんなでひとつのお財布にお金を出し合い何かあった人のために使うのだという共済の仕組みを理解する時には、「自分の出したお金が自分に返ってこなくても仲間のために使われて良かったと思える共済にしてくれないか」という発足当時の会長理事：福武先生の言葉も資料の中で紹介されました。

皆知-大学生協の学生組合員たちは……
「より良い大学生活を送るために、リスクに備えたい」という「想い」を
「協力してお金を出し合って万が一に備えよう」という「カタチ」にした！
↓
学業継続のための「たすけあいの制度」誕生

きちんと学ぶ・食べることで元気でいてほしい「想い」は大学生協の願いそのもの。（京教大 | 1年）

03 制度の一つひとつにも 想いが込められている！

企画3：変わらない想いの時間

「19制度」と「旧制度」の理解を通して制度改定が行われる理由を皆で考えました。時代や社会が変わる中で大学生生活も変化すること・大学生はキャンパスだけでなく様々な場所で生活をするためリスクも多様であることを踏まえて「19制度」を読み解きました。制度の一つひとつが学業継続のための保障・サービスを学生どうしの「たすけあいの輪」の中で実現してできていることを実感しました。

「たすけあい」を根拠として、共済は進化し続けている！
(OIC | 1年)
予防のためのたすけあいもある
(京都橘 | 2年)

04 たすけあいの輪を 4本柱への着目で広げよう

企画4：みんなからまねぶ時間

ここまでで理解した共済の想いや自分が広げたいと思ったことをどうすれば実践につなげていけるかを分科会形式で交流しました。それぞれの取り組みは「現状分析→想い(目的)→活動」という流れがあることや、活動につなげるときに「加入」「給付」「報告」「予防」という4本柱の視点をもとに考えると活動につなげやすいことも学びました。



加藤専務(奈良女)の話の聴いて…共済活動だけがたすけあいじゃなく生協の取り組み全てがたすけあいなんだ！
(京大 | 職員)

05 学んだことは その場でアウトプット！

キャンパスごとに感想交流

全体のまとめのあとは、30分程度の時間を使って「何を学んだか」「何に共感したか」といったことを各キャンパスごとに職員・学生が一緒になって交流をしました。どう広げるかを考える前に何を学んだかをみんなで整理することで帰った後により多くの仲間を巻き込んで共済活動が行えることを意識しました。閉会式ではブロック共済推進委員委員長の堂免専務から上半期の給付事例の紹介がありました。



想い(たすけあいの輪)が広がっているのが印象に残った。自大学の活動も工夫すればもっとよくなりそう！
(奈教大 | 2年)

共済についてあまりよく知らなかったが、共済とはどういう想いのもとでつくられて、どのような仕組みになっているのかを学ぶことができてよかった。共済は、大学生活を送る上で学業継続を重視した19制度へと改訂されたことが印象に残った。
(滋県大 | 1年)



今までは「共済」を制度の面でもらえることが多かったが、想いの大切さを学べていろいろ気づきを得れた。今後の取り組みに生かしていきたい。
(滋彦根 | 2年)

+A 広げよう！ もうひとつのたすけあい

勉学援助制度を知っていますか？

「勉学援助制度」は扶養者を亡くした学生組合員の学業継続のための保障として、学生総合共済やあわせておすすめする保険ではカバーできない部分を補うためにできた制度です。できてから25年間で「学業継続に困っている学生を多くたすけてきた」「先輩から後輩へ/学生から学生への思いやりを広げてきた」という成果や大学生協としての意義もあります。一方でまだ組合員の多くに知られていなかったり、寄付による運営のため財政が脆弱という課題もあります。また制度を知らない職員や学生委員が多い中で、この制度の存在を広げていくために、できることをみんなで考えて実践していきましょう！
(担当：肥後)

全共セミ、共済月間につなげよう！

今回の学びはきっと後期の取り組みに生きてきます！共済月間やツールもぜひ活用していきましょう！
文責：ブロック学生事務局 [四方遼祐]

